

4. 出土遺物

総出土量は、40Lサイズ整理箱3箱ほどで、遺構を掘り下げていないため出土量は多くはありません。おもな出土遺物は、かわらけ・国産陶器（常滑焼・渥美焼など）輸入陶磁器（白磁・青磁）などで、平泉特有のものです。とりわけ渥美刻画文陶器の破片は、特筆すべき遺物です。



渥美刻画文陶器



かわらけ



国産陶器

5. 調査成果

調査の結果、道路跡の北側には大型の四面庇建物しめんびさしを含む建物跡や井戸跡・溝跡などが配置されていることがわかりました。これは従来から考えられてきたように、この場所が「屋敷」として利用されていたことと矛盾しません。加えて、規模の大きな建物跡が含まれていることから、比較的身分の高い人たちが居住していた可能性が考えられます。今後も調査をかさねながら、堀外部地区の機能について検討していきたいと思えます。

岩手県教育委員会では、今後堀外部地区の整備事業を進めていく予定であり、今回の調査によって、その貴重な資料を得ることができたと考えています。調査は来年度も計画しておりますので、今後ともご協力を賜りますようお願い申し上げます。



編集・発行 岩手県教育委員会 ©2022

国指定史跡

柳之御所遺跡

—第84次調査—

現地公開資料

1. はじめに

柳之御所遺跡は平泉の中心部に位置し、北上川沿いの段丘面上に立地します。大規模な堀に区画された内部（以下、堀内部地区）と、その外側（以下、堀外部地区）の大きく2つに分かれます。これまでの発掘調査により、奥州藤原氏が築いた平泉文化の実像が多くの遺構・遺物により示され、『吾妻鏡』に記されている奥州藤原氏の政庁「平泉館（ひらいずみのたち）」であると考えられてきました。

遺跡の価値が明らかになったことから、平成9年（1997年）に国の史跡に指定され、岩手県教育委員会では、平成10年（1998年）度から遺跡の内容の把握と整備に係る情報収集を目的として、柳之御所遺跡の発掘調査を継続しています。平成30年（2018年）度からは堀内部地区に続き、堀外部地区の発掘調査を実施しているところです。

堀外部地区は、奥州藤原氏の一族や家臣団の屋敷地などとする見解もありますが、未調査の範囲も多く、当時の様子が不明な部分も残されています。今年度の第84次調査では、昨年度まで調査を行っていた中尊寺と柳之御所遺跡を結ぶ道路状遺構の北側について、①区画のありかたや年代②区画内の遺構の様相③道路状遺構と内側の堀との関係性を把握することを目的として調査を行いました。

2. 調査要項

- 調査期間
令和4年6月1日～10月31日
- 調査面積
約1,000㎡
- 調査機関
岩手県教育委員会



3. 検出遺構

調査の結果、以下の遺構が確認できました。

- 掘立柱建物跡・・・3棟以上
- 柱穴・・・650個
- 溝跡・・・27条
- 土坑・不明遺構(井戸跡含む)・18基

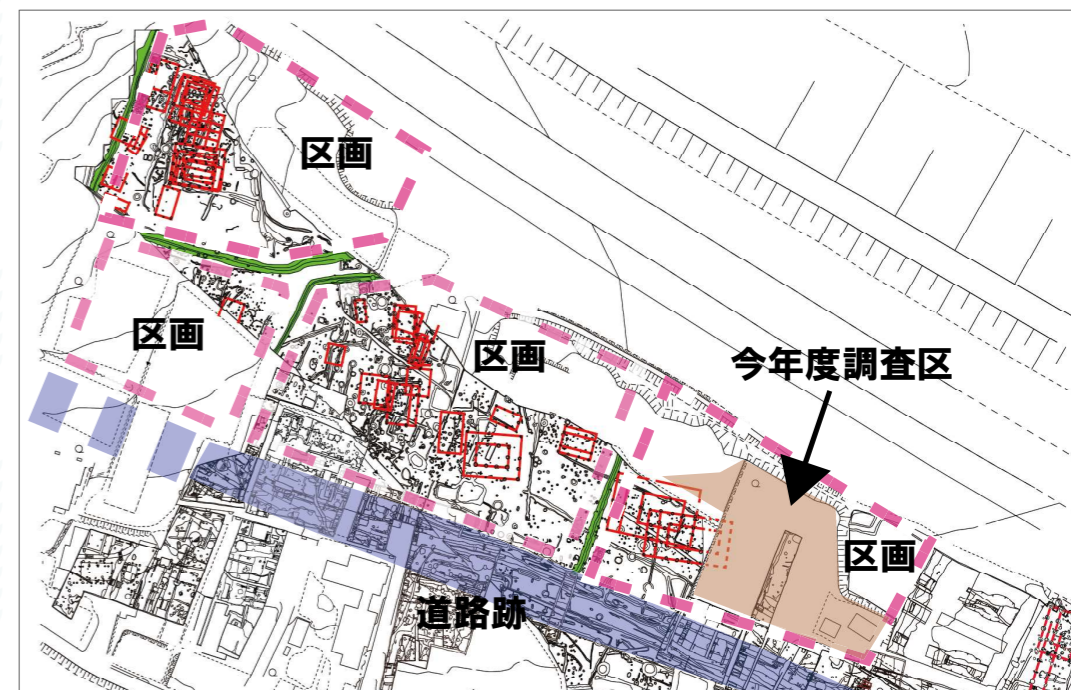
■おもな成果としては以下のとおりです

◎堀外部地区における最大級の建物跡(30SB1)の再確認。

今回の調査ではこの建物の一部を調査し、さらに大きくなることがわかりました(柱穴列が1列追加)。4間×9間の規模で、床面積は約225㎡もあります。これは堀内部地区の大型建物跡と比べても見劣りしないものです。

◎昭和44年に調査された第6次調査(藤島亥治郎氏ら平泉遺跡調査会による)でのトレンチ跡を再検出。

平泉を古くから調査してきた先人の方々の業績に敬意を表するとともに、柳之御所遺跡の発掘調査が50年以上にもわたり続けられていることに、あらためて驚きを感じています。



遺構配置図



▲井戸跡の断面写真



▲30SB1 堀外部地区最大級の建物跡

